



心ゆたかに

三芳町立藤久保中学校 学校だより 第1号
学校教育目標 「自ら考え進んで行動する生徒」
令和6年4月15日(月)発行 文責 菅谷 和孝

「藤久保中学校の新たなスタート」 校長 菅谷 和孝

今年度新たに99名の新入生を迎え、2年生98名、3年生113名、全校生徒数310名、教職員数37名で令和6年度がスタートしました。新入生の皆さん、入学おめでとうございます。在校生の皆さん、進級おめでとうございます。私は、今年度より藤久保中学校に新任校長として着任いたしました、菅谷 和孝(すがたに かずたか)と申します。生徒や保護者様、地域の皆様など、様々な方からより一層親しまれる藤久保中学校となれるよう、教職員一同全力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願いたします。



さて、今年度の入学式において、本校の校歌を作詞して頂いた「宮沢章二さん」について触れながら、式辞をさせていただきました。一部をご紹介します。

『代表的な詩集の中に、「行為の意味」という作品があり、その一節を使用した、テレビコマーシャルが2010年に放送され、大変話題になりました。本日はその一節を紹介します。「ここは誰にも見えないけれど、心づかいはみえる」「思いは見えないけれど、思いやりは誰にでも見える」という詩です。みなさんはこの詩を聞いてどのように感じましたか。何を思いましたか。みなさん一人一人に心や思いがあります。しかし、思ったり考えたりするだけでは相手には伝わりません。相手に伝えるためには言葉が大切となります。また、言葉にしなくても、相手を思いやった行動で思いを伝えることもできます。しかし、これは受け止める側にも思いやりや心づかいが大切で、どんなに思いやりのある言葉を聞いたり、行動を目にしたりしても、受け止める方の心や捉え方次第では、よく見えなくなってしまうこともあります。今、世の中では心ない言葉が飛び交っていたり、残酷な事件が起こったりと、残念なことが後を絶ちません。しかし、この詩のように、人間それぞれが、心づかいができたり、思いやりのある言葉や行動ができたりすれば、少しでも笑顔になる瞬間が増えると思いませんか。人は一人では決して生きていくことはできません。必ず自分以外の誰かが、何らかの手助けをしてくれたり、働いてくれたりすることで生活が成り立ちます。ぜひ、みなさんも、この中学校生活を通じて、心づかいや思いやりのある行動を心掛けるとともに、周囲の優しさに気付いてあげられる人として成長していきましょう。そして、互いを認め合い、互いと学び合い、互いで高め合える仲間を増やしながら、自分自身の良さや秘めたる可能性を信じ、自身の目標が達成できるよう努力し続けてください。さらには、藤久保中学校の学校教育目標であります、「自ら進んで行動する生徒」を目指し、健康でたくましく、学校生活を送ってほしいと思っています。』

変化の激しい社会の中で、将来的に社会人の基礎力として必要と思う力に「主体性」と言われており、まさに、藤久保中学校の学校教育目標であります「自ら進んで行動する生徒」の力があります。自分の意志や判断において、自らの責任で行動し、周囲と協働しながら前に進んでいく力を目標に、今現在思い描いている「夢」を目標に変え、グローバルに活躍する人材(財)として羽ばたいていってくれることを願っております。

昨年度は記念すべき40周年を迎え、大きな節目としての1年を過ごし、今年度からまた新たな10年(50周年)に向け、藤久保中学校は歩み出しました。次の10年までの道のりには、不易流行を繰り返しながら、アフターコロナとして様々な状況を考え、生徒一人一人にとって、有意義な教育活動が実施できるよう、教職員一同、力を合わせ全力で生徒達をサポートしていく所存であります。保護者・地域の皆様には、様々な御協力を賜ることになるかと思いますが、何卒、本校生徒のために御尽力いただくと幸いです。どうぞよろしくお願いたします。

